

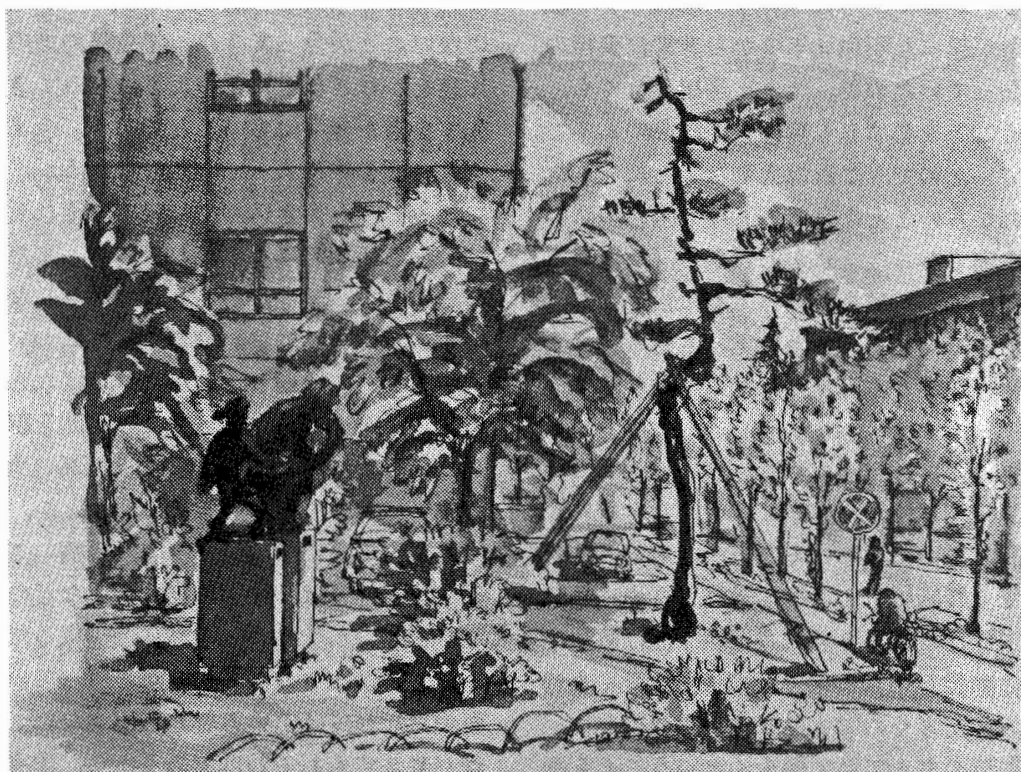
学園ニュース

富山大学

NO.36

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和56年7月10日



学内風景(その1)学生会館まえ 笹倉加奈子

— 目 次 —

学生部長就任にあたって.....	学生部長 四谷平治	2
新任教官紹介及びあいさつ.....		3
ソビエト連邦の研究出張を終えて.....	工学部助教授 川田 勉	8
TOYAMA UNIVERSITY AND TAKAOKA BY EYES OF SOVIET SCIENTIST	Serguei Pikin	10
南欧の旅——フィレンツェ.....	教育学部美術科(絵画)四年 笹倉加奈子	11
トリチウム科学センターについて.....	トリチウム科学センター長 竹内豊三郎	12
学生部だより.....		14
編集後記.....		18

学生部長就任にあたって

学生部長 四谷平治

近来にない豪雪と寒さのため大したことはないと思っていた風邪をこじらせてしまっただけで肺炎を患い病院に入院中に大学から電話がかかり、学生部長に選出されたが受けるかということであった。多少のためらいもあったが決定が示された以上それに従うのが自分の取る道であろうと思い、受理することとしその旨を返事したわけである。かねてから大学の学生部長という職務は、学園紛争が起った昭和40年頃から非常に負担の大きい仕事となっていたので、たとえ選出されても、これに就任することを必ずしも喜ばない風潮のあることもよく知っていたので、これは大変なことになったなと思い、これからのことを考えてしばし困惑の念にかられたのは事実であった。しかしながら、たとえどんな困難に直面しても、誠意を以て事に当れば道は自ずから開けてくるであろうという気持もあって、また自分にそう言い聞かせて引き受けたようなわけである。

振り返ってみると大学を出てから、直ちに教師の生活に入り、旧制専門学校から大学にかけてもう既にかんりの長い期間教職にあるわけであるが、その間にあって学生にしても教師にしても落ち着いて自由に勉強出来なかった不幸な時期が2回あった。1回は戦時中であって、学徒動員ということで直接戦場に行くものもあれば、他方また多くの学生は軍需品生産のため、学生的身分で在籍のまま工場で働らくということをやったものである。教師も派遣教官として工場に赴き、学生と会社の寮において起居を共にして、生活指導から技術指導まで万端を世話した時期があった。もう1回は記憶に新しい大学紛争であって、ストライキ（授業放棄を指している）、学園封鎖、大衆団交など従来の辞書にもないような言葉の学内騒動が起ったのである。これについては生々しい、また苦々しい体験をしたことは多くの方々と共に昨日のことのように思い出されてくる。この2つの過去の経験は、どうして起ったかという発生のもとになった原因とか動機とかはイデオロギーの立場からは全く違っていて、両極端に位置するものであろうけれども、学園の平和が脅かされて大学の本来の任務であるはずの教育・研究が出来なくなってしまったという点においては全く同じであった。こういうことを振り返ってみるにつけて、平

常時における自由とか平和とかいうことの大切さが痛切に感ぜられるのである。

さて、学生部長に就任して1か月余りになるが可成りの重い負担の毎日となっている。当初は工学部の教育・研究の仕事が半分、学生部の方の仕事を半分程度と考えて勤務日程を組んでいたのであるが、仕事に不馴れなこともあると思うが、どうもこれでは済みそうにないことが分ってきた。学生部の方の仕事に大きな比重をかけざるを得ないようになってきた。何よりも先ず会議が非常に多いことである。今までは会議日は大凡は頭の中に入っていたのであるが、この頃は手帳にぎっしりと書き込んでおいて、それを毎日見なければ分らない状態になってしまった。また学内の重要な会議のうち、学生部が主として関与しなければならないものが比較的が多いので、これについては予め審議内容について検討しておかなければならないわけであるから、その準備にも可成りの時間を割かなければならない。殊に、ここしばらくは恒例の大学祭の問題とか或いはかねてからの学寮の問題とか、簡単に事務的に処理出来ない事項があって頭の痛いことばかりである。学生部長は、学生の補導厚生などの面で学生の世話をするのが仕事であるから、出来るだけ学生の身になって親切にやりたいものだと思っているが、学生の要求に対しては出来ることと出来ないことが自ずから誰が考えてもあるわけであるから、出来ないことについてはよく説明して分って貰うより他に方法がない。学生と大学との間に相互の理解に食い違いがあって、誤解を生じている部分については、その誤解を解くように出来るだけの努力をしなければならぬと思っている。しかしながら、どう考えても学生の要求するようには出来ないという事については、無理なことを突きつけてこられてもお断りするより他に方法はない。その事をよく理解して貰いたいものだと思っている。何にしても学生指導の問題は、大学としては困難ではあるが非常に重要な問題であることはどなたも理解して頂けることと思うので、学内の評議会、教授会、協議会、委員会などの諸会議を通じて出来るだけ大学としての合意の形成を行って頂きたい。その形成された合意を体して、それに基づいて学生指導に対処して行きたいものだと思っている。

新 任 教 官

- | | |
|--|--|
| ○小谷 仲男 教授(人文学部) 56.4.1
昭40.3 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
担当:東洋史学 | 昭54.3 北海道大学大学院法学研究科博士課程
公法専攻単位取得退学
担当:基礎法 |
| ○磯部 彰 講師(人文学部) 56.4.1
昭56.3 東北大学大学院文学研究科博士課程後
期課程単位取得退学
担当:中国文学 | ○久保 文夫 助教授(理学部) 56.4.16
昭50.3 大阪教育大学大学院教育学研究科修士
課程修了
担当:応用解析学及び電子計算機論 |
| ○河野 信弘 教授(教育学部) 56.4.1
昭29.3 東京教育大学体育学部体育学科卒業
担当:体育実技 | ○高辻 則夫 助手(工学部) 56.4.1
昭56.3 富山大学大学院工学研究科修士課程修
了
担当:塑性加工 |
| ○宗 孝文 助教授(教育学部) 56.4.1
昭36.3 京都大学大学院教育学研究科修士課程
教育専攻科修了
担当:幼児教育 | ○石川 義和 講師(教養部) 56.4.1
昭53.3 東北大学大学院理学研究科博士課程修
了
担当:物理学 |
| ○後藤 敏伸 助手(教育学部) 56.4.1
昭55.3 筑波大学大学院芸術研究科修士課程美
術専攻修了
担当:彫塑 | ○別本 明夫 講師(教養部) 56.5.1
昭53.3 金沢大学大学院文学研究科修士課程修
了
担当:ドイツ語 |
| ○飯田 剛史 講師(経済学部) 56.4.1
昭54.3 京都大学大学院文学研究科博士課程単
位取得退学
担当:社会学 | ○篠原 巖 助教授(経営短期大学部) 56.3.1
昭52.3 名古屋大学大学院法学研究科博士課程
単位取得退学
担当:憲法 |
| ○萩野 聡 講師(経済学部) 56.4.1 | |

山陰から北陸へ

人文学部教授 小 谷 仲 男

私は鳥取大学教育学部に7年間勤務し歴史学を担当していました。このたび富山大学人文学部に移り、より一層専門領域の研究に専念できると、学生諸君と学問の上で意気投合できることをたのしみに来ました。富山大学は以前に訪問したことがなく、今回がはじめて。大学へ足をふみいれての第一印象は、規模は大きい建物が配置が平坦、単純。道をはさんで校舎が整列するのみで、おもしろみに欠けるなあという感じ。立派な庭園が本部横にあるが、片すみでもったいない。散策や語らいの広場がすくない。おまけにあちこち、

車が占拠している。広いメイン・ストリートに車やバイクがひっきりなしに走るのにもびっくり。騒音がひどいのと安心して歩けないのは、これだけ広いキャンパスをもつ大学として惜しいなあと思った。しかしあとで静かで、考えながら歩けるキャンパスづくりの運動がはじまっているのを知り、心強くうれしかった。校内をすこし整備すれば十分実現可能である。豪雪のニュースを他所で聞いていたので、校舎の単純な配置も除雪には便利なのかと試してみたり、とにかく一冬無事越してみないと自信がもてないというのが現在の心境です。

春望 — 閑 静 安 居 —

人文学部講師 磯 部 彰

ひばりのさえずりのもと、白雪の遺音も消え、緑々たる香葉が木々にまぶしく輝く頃合い、のどかな田園の中の学舎というのが富山大学に持ついまの印象。青葉山の桜をはるかにし、広瀬川のせせらぎの音が遠のくにつれ、別離を恨む風情が懐旧として一幅の絵を心に描いた。

だが、初めて北陸の地を踏んだ清明の折、呉羽の山桜に神通川の銀光の流れが新たな伴侶となった。また、

はちめが遊ぶ青碧の日本海は、慣れ親しんだ湘南の海と一味塩の風味が違うが、蟹気楼を招く幻想の宝海として迫ってくる。対岸に見える朝鮮半島や中国大陸は、私の大切な知音の感がある。

晴れた日には、虫喰いの明刊本「西遊記」を片手に、せりをつみつつ、五福のかえると悠然として立山を見望することにしよう。

「こよなく富山を愛するの記」

教育学部教授 河 野 信 弘

大学卒業後、27年間勤めた順天堂大学体育学部を後にして富山へ赴任することになりました。ずーっと私立畑で暮していた私にとって、国家公務員と言うものは窮屈でとまどっております。体操を通して老人・慢性病患者・障害者の運動療法など、どちらかと言えば社会体育の領域に迷い込んでいた私ですが、富山大学では教育の場での体操をもう一度見直したいと思っています。

私は以前から、年を取ったら富士山に見える所に家を建てて、毎日山を眺めて余生を送りたいと思っておりました。今回、縁もゆかりも無かった富山へ来る事になったのも、多分、山が近くにある事と関係があると思います。ただ、私の出身は町民の生れですから、富士山の「土」が抜けて富山となったわけです。

冬の北陸の厳しさは話に聞いて今から恐れをなして

はいますが、立山連峰を始めとする北アルプスの山々が、信じられない位の近さと高さで屹立するこの感激は、来た当座だけの事でしょうか。逆に、この感激をトコトン目に焼付けておこうと、毎朝5時台に起き出して立山連峰に見える丘や川原に散歩に出かけるのが日課となりました。従って、天候が悪くて山並みの見えない時などは大変がっかりします。「何時でもアルプスの見える家」がこちらへ来てからの夢となりました。この8月には、学生実習に付添いで立山登山に参加することになりました。私にとって全くの初体験で、どちらが付添われるのか判りませんが、これも今から楽しみの一つです。

こうした素晴らしい自然の中で、富山大学における生活も愛すべきものでありたいと希っております。

富 山 へ 来 て

教育学部助教授 宗 孝 文

サカナとサケが美味しいところだと挨拶状に書いて出したら、早速5月中頃、大阪から友人がやってきた。彼は、少し休暇をとってどこかへ出かけようと思っている矢先、ハガキを見て行ってみる気になったということだが、富山へは、かつてイタイタイ病の取材にやってきて、その時のサカナの味と人情が忘れられなかったそうだ。このたびも彼はご満悦で、翌日、立山へ向かった。

たしかにサカナも美味しいが、いわれてみれば、人

の気持の暖かさ、素朴さも、まだ短時日の生活ではあるが、しばしば感じている。5月始め、八尾の和紙作りの工場を訪ねた。お祭りの山車が出る前日とあって、町なかは静かだった。連休で工場も休みであったが、いあわせた主人は、予約なしの休日の来訪者にもかかわらず、ねんごろに話をしてくれ、併設の和紙文庫まで見せてもらった。たんにムシのいどころがよかっただけではないように思った。展示してあるものも、作った人と集めた人の、心の暖かさが伝わってくるよう

なものが多かった。「蓮如のお文の文字が面白くてね」とその一部も展示してあったが、同じ頃、高岡で見た蓮如の書写になる歎異抄の文字と重なり、印象深かった。牛岳を背に、井田川ぞいを下る足どりは軽かったが、心の暖かさも、ここではいい意味の信仰が生きて

いるのかとも思った。私の担当は幼児教育であるが、好きなことばに、仏典の「白色白光」というのがある。子どもたち一人ひとりの、それぞれに光るものをみたいと思っている。

新 参 所 感

教育学部助手 後 藤 敏 伸

早いもので、本年度4月1日付で着任して以来3ヶ月目に入り、ようよう落ちつきこちらでの生活に余裕なるものも生まれたようです。

新地富山に来てからの印象を、少し述べさせていただきます。まず何と言っても私にとって強烈であったのは雪なのです。我々南国（宮崎県）の人間が10年に一度有るか無いかの、あの神秘的で待ちに待ちこがれる質素な粉雪ではないのです。3月に始めて富山の地にYS11型飛行機から降り立ったその時の私の胸の高鳴りは、どうにも抑えることができず、とっさに私の背よりも高く積った雪を握りしめていました。その飛行機の中から眺めた富山の町は、膨大な雪に覆われてその姿を知ることできない程でした。正に川端の「雪国」なのだと思いました。感動そして又感動だっ

たのです。

でも不思議な事に、富山の人々は我々が羨望と感動で眺める雪に対しては、ひどく冷淡なのです。と言うより憎しみさえ感じてしまいます。北国の人間はやはり冷酷なのでしょうか。無論、雪害についてはこれから毎年私の身体で感じて行きますので野暮に説かないで下さい。これは私からの切な願いです。

その他、富山の自然は贅沢の一語に尽きます。正に海あり山あり河ありで、おそらく人間に最も愛されている自然の全てが存在しているのではないのでしょうか。私のような美術する者にとっては、これ以上の自然環境は望めそうにもありません。

ともかく、年齢的にもまだ学生に近い私であります故、厳しく御教示下さるよう切に望んでおります。

ご あ い さ つ

経済学部講師 飯 田 剛 史

31年間、生れ育った京都を離れ、このたび当地ではじめて単身生活をするようになりました。炊事、洗濯等、やってみれば意外に楽しくもあり、ひとまずは生活パターンも落ち着き、次の研究計画を模索しているところです。

私の専攻は、社会学ことに宗教社会学といわれる領域です。つまり、宗教の教義や実践を孤立的、規範的に扱うのではなく、宗教意識および行動の実態調査を通して、現代社会のいわば「普通の人々」の存在の有り方を探そうとするものです。「普通の日本人」の「普通の生活」の中にこそ、膨大な文化の蓄積があり、

現代の疎外状況に対する人間的主体性の可能性を見出すべきと考えるからです。富山には、浄土真宗の伝統をはじめ、多様な新宗教運動、ことに青年層、学生層のそれもみられ、現代社会に生きる人々（自分も含めて）の生の有り様を研究する糸口に事欠きません。調査対象と研究主体は、同時代を生きるものとして、ある連帯性をもち、研究者は調査結果を、いわば自己反省としても受けとめねばならないと考えています。

先生方、同僚諸兄、学生諸君よりの御教示をお願いします。

随 想

経済学部講師 萩 野 聡

「助手と何トカは3日やったらやめられない」とある大先生がおっしゃったとか。その助手生活とも別れ、

富山に赴任してきて2カ月。北海道とは異なるその風土・文化・習俗・街並・精神的土壌などに接して、雑駁たる感想はいただいているものの、未だ明確な形をとって表現する程、熟しているものでもない。翻って考えてみると、富山と北海道とは明治以降、少なからぬ繋りを有している。その意味では、富山は私にとり未知の土地ではあったが、必ずしも縁なき土地とも言い難いものがある。

ところで、現代社会における行政の位置・比重、行政と国民の関係は、好むと好まざるとにかかわらず、従前にも増して多様かつ重層化・複雑化してきている。このような事象を前にして「通説なき戦国状態」にあ

る行政法学は何処へ行こうとしているのであろうか。その渦中にいる一学徒は唯々浮動し続けるだけなのか。はたまた、そこより抜け出し不動の壘砦を築くことができるのであろうか。

ともあれ、毎日、立山の雄大な山並を見ながら大学へ通うことができるのは、一つの喜びである。その姿は私に、何時いかなる所においても“Boys, be ambitious!”の精神を失なわず持ち続けるようにと、励まし語りかけてくるように思える。今後、様々の人々に出会い種々の社会事象・自然現象等を経験するであろうが、いつまでもこの精神を胸に抱き、常に新鮮な気持ちで大学生活を送り続けたいと思う。

那覇・札幌 そして 富山

理学部助教授 久保文夫

この3つの町は、私が故郷の神戸を離れてから住んだ町です。赤いデイゴの花の咲く琉球大学は、私の最初の『職業としての数学研究の場』でした。琉球大学の数学のスタッフは理工学部・教育学部など合わせて20人を越す大所帯でした。皆が戦後急造の首里城あとのキャンパスで研究していました。今もテレビで守礼の門が写ると、後のほうに理系ビルは見えないかと首を伸ばしてしまいます。(もう琉大は新キャンパスに移転してしまったそうですが。)3年半南の端の那覇で過ごした後、私は北の端の札幌に引越しました。新しい研究の場は、北海道大学応用電気研究所応用数学部門、研究所の15部門中唯一の数学系部門でした。その数学のスタッフは、教授1、助教授1、

助手1、秘書1の4人。5階建てのビルに、医系・工系・理系のメンバーが15部門に配置されているこの研究所では、私は電気回路に関連した解析学に興味を持ちました。札幌も花の美しい町です。雪融けを待って一斉に開く花々、また6月の一面のリラ。3度雪祭りを見て、今度はここ富山へ引越して来ました。町の背後に白くそそり立つ立山連峰。これは全く初めて経験する景色でした。背すじの伸びる感じとでもいうか、厳しい自然という印象が強烈でした。この大自然を背景にしてふさわしい数学とはどんなもののでしょうか? そのような数学に貢献したいものです。

新任の挨拶

工学部助手 高辻則夫

前に日本海、後に立山連峰と自然に恵まれ、四季おりおりに違った顔を見せる我が故郷で、社会人としての第一歩を踏み出して、ほぼ2ヶ月が過ぎ、ようやく仕事にも慣れてきた今日この頃です。

近年、省エネルギーの要請に伴い、生産性の向上が重要視され、アルミニウム利用による軽量化が進められています。私の在籍する塑性加工講座は、鋳物やア

ルミニウムなどの地場産業と密接な関係があり、各会社や工場との交流も多く、現場と密着した実用的な研究を行っています。従って、研究テーマにも恵まれ、非常に充実した毎日を過ごしており、今後は、じっくり腰を据えて研究に取り組んでいきたいと考えています。とは言え生来のんびり屋で、経験も浅い者ですので皆様の御助言をお願い申し上げます。

あ い さ つ

教養部講師 石川 義和

一言新任の御挨拶と簡単な自己紹介を申し上げます。私、生まれは東京三河島、下町の小さな家のたち並ぶゴミゴミした所です。そこから高校、大学（電通大）へとかよい、その後、杜の都、仙台へ脱出し、大学院生活、オーバードクター生活含めて8年間を過ごし、縁あってこの度この富山の地へ赴任してまいりました。

富山での生活はまだ2ヶ月余りですが、4月の第一印象は、雪をかぶる立山連峰が青空の下おおいかぶさってくるように仰角に聳えたつ姿に恐ろしさを感じました。町中から見る山は、遠く遙かに眺めるものと思っていましたから。土曜、日曜は、出来るだけ外に出て富山を知ろうとしております。総曲輪、富山城そし

て桜木町界限も散歩してまいりました。呉羽山の長慶寺をおとずれて五百羅漢像を見つけた時、その一体一体の表情豊かな「らかんさん」に驚かされました。生き生きとして今にも動き出しそうに感じられたからです。そこに立っていたら、500人もの人達がペチャクチャペチャクチャと楽しくお喋りしているようにも思え、何となく騒々しく感じられました。

私にとって富山は全く新しい土地ですが、楽しく研究生活に専念できるような気がして、うれしく思っています。今後共、御指導御鞭撻の程よろしく御願ひ申し上げます。

「旅の人」の感想

経営短期大学部助教授 篠原 巖

私は、この3月に富山に住むことになって以来、この土地の気候・風土、言葉・人情がどういふふうで、それらにどうなじんでいくか、ということにかなり気をつかうことになりました。10数年住んでいた名古屋とはずいぶんの違いがあり、とまどうこともたくさんあります。「旅の人」という言葉をはじめで知りましたが、私もその一人として扱かわれながら、今後どうこの土地柄と付きあっていくか、という問題を避けて通れないようです。

こちらに来る直前に、ある人に、富山の事業を知るに好都合な本として「蘇がえれ 地方自治」（北日本新聞特別取材班著 1971年）を推せんされ、読んでみました。

この本は富山の地方自治や教育の実態をじつに詳細に報告し、しかも地元新聞なのに思いきり批判的に扱っていることに驚きました。大変参考になりましたが、その後の10年の経過が、どういふ変化をいかなる原因によって生じてきているのかを、私は調べてみたいと思うようになりました。

今のところ、自然条件だけでなく、社会生活のすべてにわたって、大都会と地方都市の違い（名古屋もかなり地方都市的だと思いますが）をさまざまな事実としてつきつけられ、考えさせられているのですが、この問題を自分の専門の研究に反映させていくのが、私の1つの課題だと感じています。

もぐらの寝言

教養部講師 別本 明夫

かつて富山大学に学んだ私にとって、この大学がたんに職場というよりは、同時に母親の懐のようなもので、その懐のなかには自分が依然若い学徒のままで居られるのではないかと錯覚していた。しかし、学徒はともかくも、若いという一点については精神的にも肉体的にも、いったん教師となってみるとそう容

易になり切れそうもない。授業に出てさらに若い学生諸君に相対すると、すっかり狼狽してただひたすらに教師の義務を果たす仕儀となる。毎年新学期になると新入生諸君を前に、再び文法の最初に戻って授業を始めるのだが、教師が年をとる一方であるのにひきかえ、相手は一向に老いる気配がない、このときはどこかシ

ジュフォスに似た宿命も感じられ、眼に見えない大岩を黙々終講の日に向かって押し始める。と同時に若い学徒であると思っていたはずの私は、その時確実に齢をひとつ加えたことを切実に意識する。

正真正銘の学生であった頃からどれくらいの年月が経っただろうか。あの頃に比べて学内の風景は少なからず様変わりした。

大学構内のあちこちに雑草の伸びた空き地や、木立のある荒れた庭のような所があったのを今も思い出す。そんな青空集会所として利用価値の高い場所がすっかり姿を消し、いつの間にかずらり車の並んだ駐車場となっていたのには驚いた。インスタントラーメンを2袋も食って煙草をふかせば、案外満ち足りた気分になった我々の学生時代には、こんな光景は想像もつかぬことであった。広告だか記事だかわからないものが満載された、カタログのような雑誌が売れる時代であるから、物質的豊かさや生活の快適さが学生生活の質を格段に向上させたのかもしれない。かつて大学に見られた牧歌的閑静と質実な健康とは、そのためかどうか、どこかに鳴りをひそめてしまったようだ。大学がすっかり外部の慌しい騒々しい世界と直結してしまい、構内を歩きながら思索に没頭するというのは、特殊技能となりつつある。

以前富山大学と聞くと、すぐに思い浮かぶ光景があ

った。それは正門から見たメインストリートの佇まいで、貧弱な街路樹が植わり、どこか閑散とした雰囲気のものである。先日その街路樹がひと頃の倍も丈高く、緑豊かに枝を伸ばし、実に見事な逞しい木に成長しているのに気がついて、私は少なからず感動を覚えた。と同時に私はこの木の大きさを、まっすぐ天空を突いている素直さがすっかり気に入ってしまった。

それぞれの大学に独特の雰囲気というか、なにかカラーのようなものがあるとして、その大学の象徴ともなるべきものがあれば、富山大学の場合はこの街路樹が最適ではないだろうか。つい2・3日前に、私ははじめてこの木の名前がゆりのきであることをある先生から教えていただいた。調べてみると、別名ハンテンボクという北アメリカ原産のモクレン科落葉高木で、高さ50m、直径3mもの大木になるとのことである。

さてところで、神話のなかのシジュフォスは今も大岩を山の頂きに向かって押し上げているのだろうか。古来このかた彼が老け込んだという話は聞いたことがないが、私はいずれ老いぼれ学徒となり老醜に身をさらすだろう。そのときメインストリートのゆりのきは50mの大木になっているのだろうか。もしそうだとすると車はまだ通れるだろうか。いや、そんな心配は老いぼれ学徒の取越し苦勞か。

ソビエト連邦の研究出張を終えて

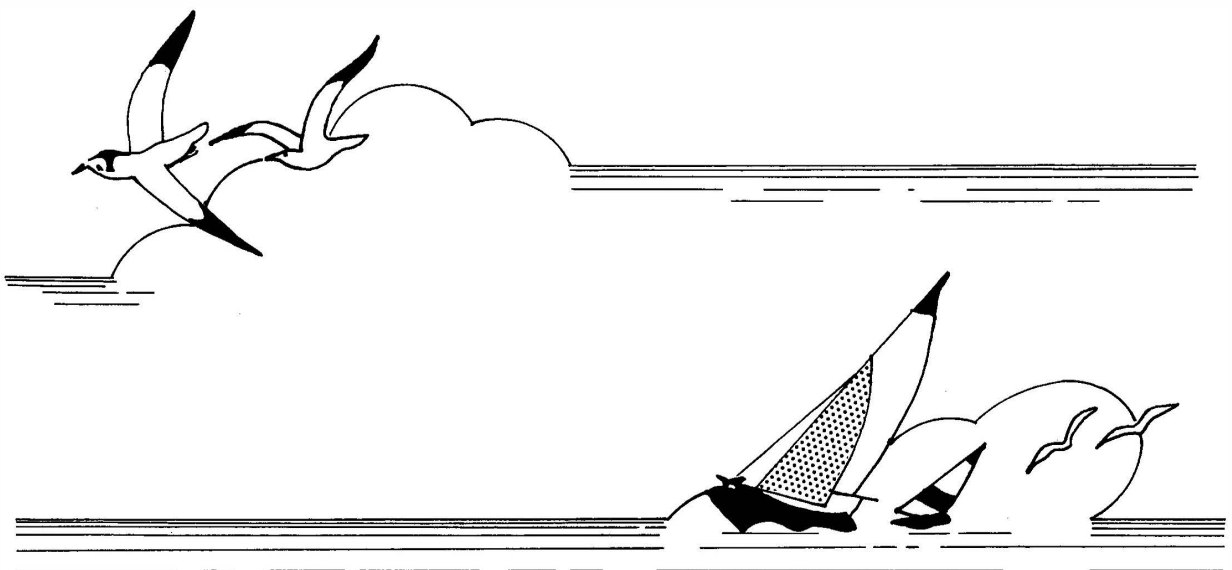
工学部助教授 川 田 勉

良き友人でありアドバイザーでもある同じ学部の坂井助教授に勧められたのが直接の動機でした。日本学術振興会とソ連科学アカデミーの経費負担を得て昨年の10月1日より、この5月31日迄の8カ月間をソビエト連邦で過ごしたわけです。折しも日ソ関係は必ずしも良好でなく、親族縁者達が何かと懸念する中を、快晴の成田より曇天のモスクワ・シェレメチボ第2空港へ直行しました。日本大使館、ソ連科学アカデミーよりの迎えを受けて地下鉄(メトロ)オクチャブリスカヤの近くにある科学アカデミーホテルに到着しました。立派とは言えませんが外国人研究者の大半はここに宿泊し、メトロ、バス、電車と交通の便は大変良い場所です。横をレーニン大通りが走り、それに沿って南下する方向には、アカデミー本部をはじめ、多くの研究所の散在する文教地区を控えている。私の研究課題は、

「非線形発展方程式の数理解物理的手法の研究」です。ホストはランダウ理論物理研究所のV.E. Zakharov教授で、彼はこの分野(もっと物理に近い)では世界的権威であり、ロシア内での評価も非常に高い。彼は、シベリアのノボシビルスク大学を卒業し、同じ場所にある核物理研究所でR. Z. Sagdeev(アカデミー会員、モスクワのSpace Research研究所のHead)に学び、Langmuir Collapseの研究によりドクトルの学位を得ている。少し補足するが、ソ連には3種の学位(i)キャンディダート、(ii)ドクトル、(iii)アカデミー会員(準員もある)があり(i)が、日本、アメリカのph. D.に相当する。後年モスクワに移り(1967年位?)現在はノボシビルスクより呼んだ若手研究者(ソ連では34才以下との由)S. V. Manakov, A. V. Mikhailovと共にランダウ研究所で働いている。この2人は、私は会

えなかったがA. B. Shabatと共に非線形発展方程式の解法である“逆散乱法”の発展に貢献した。特に Mikhailovは2次元Thirring モデルの解法で私と直接研究関係が合った事もあり、後の研究は彼とやる事になった。具体的には、Zakharov とShabat により提案された方法（逆散乱法の一つ）により特殊実群上のカイラル場に現れる“ソリトン解”を調べ、その力学も研究するというものである。正確に解ける相対論に共変な場の理論を見出し解析するという方向であり、すでに知られているsine-Gordon 方程式は2次元ユニタリー群に限定して得られるが、我々の設定では、解に特異性が現れ、それが物理的になにがしかの意味を持てるのかどうかが大問題で、未解決として残された。モスクワの研究環境を説明したいのですがそれに関連して、ランダウ研究所そのものを述べねばなりません。普通ロシア人が言う時は、それはモスクワ北東80km位にある小さな町チェルネガロフカにあるもの（約100人位）を指します。Zakharov 達もそこに居住していて、特に西欧系の外国人は入れません。レーニン大通りを南に4km位下りますと、宇宙飛行士ガガーリンの像の立つ広場があり、その近くに

Physica Problem 研究所というのがありますが、外国人はこれをランダウ研究所と呼び、違いがあります。両者は、理論部門において同じだったのですが、分離したのだそうです。Physica Problem 研究所の理論部門は、主力はチェルネガロフカにあり、国際会議や、主要なセミナーを除けば通常は火、木曜日を除いてひっそりしています。私は、もう少し南へ下ったメトロ、プロッフソユズナヤ駅の近くにあるOceanology 研究所の理論部門の一室に机を一ケ与えられ、通常はそこに通っていました。この一室はZakharov の室であって、彼は毎週やって来て学生に講義をし、又その若手も指導しています。モスクワ以外にもシベリアのノボシビルスク、カスピ海と黒海間のグルジアの首都トビリシ、ピョートル大帝の築いたレニングラードを訪れましたが、いづれでも科学アカデミー及び研究所スタッフに過分の世話を受けた事をここに記して謝意を表すものです。又私の留守中にいろいろ迷惑等おかけした工学部の皆様にも感謝します。最後に、日ソの学术交流がもっと盛んになって、平和友好が増進される事を祈って筆を止めます。



TOYAMA UNIVERSITY AND TAKAOKA
BY EYES OF SOVIET SCIENTIST

Serguei Pikin

It was very interesting and very useful for me to visit Toyama University. I worked in Department of Electronics and mainly saw the Takaoka campus but sometimes called on Toyama city too. I was impressed very much by cultural traditions and folk customs, by coloured and jolly feasts, by friendly treatment of Japanese and by gay frame of mind of Japanese children. I noticed that Japanese were well satisfied with their home life giving higher importance to good relations among their families as a whole. It is remarkably that education is the predominant topic discussed among family members in Japan. I want to note especially that the children's education and the relating to children's preparations for higher school entrance examinations are the most frequently discussed questions in Japanese families. It is just the same in Soviet families as well as taking care of health of family members. I have known that Japanese women prefer family life to work. I think that Soviet women present a contrast to this.

Japanese students as well as Soviet students seriously study foreign languages. It was pleasant for me to know that several tens students study Russian in Toyama University. Unfortunately Japanese is very complex language but I am sure that number of Soviet students studying Japanese language will increase rapidly. It is naturally because of great interest of Soviet people to Japanese culture, arts, literature, science and technics. Japan demonstrates remarkable progress what is done in other countries and adapting this to own culture and traditions. Seeking perfection and find treatment of details are the attractive national traits of Japanese. One can see these in many things from flower arrangements to microelectronics. I hope that Japanese like some traits of the Russian character. There is no doubt whatever that it is necessary to develop Japanese-Soviet relations in economical and political fields. It is nice that Toyama prefecture plays positive role in this important matter. I believe that the USSR and Japan will join in future cooperative effort to solve the problems of maintenance of peace as well as energy, food, pollution and other problems in the world.

Serguei Pikin

紹介

Pikin教授はソビエトアカデミー結晶研究所の理論分野の研究者で、日本学術振興会・ソ連アカデミーの交換研究員として来日され、富大、阪大、東大などにそれぞれ3～4週間滞在、研究交流をされました。

(工学部 市村)

南欧の旅——フィレンツェ

教育学部美術科(絵画)4年 笹倉加奈子

豊かな太陽の光に充たされた街——アテネをこの旅の振り出しに、ローマ、ピサを経て、夕刻フィレンツェにはいる。中央駅付近の乱暴なまでの車の混雑ぶりに辟易し、私をこの地へと駆り立てた、多くの興味深い歴史の栄光すら、色あせてしまうだろう不安を感じた。だが、15世紀のフィレンツェを望むのは、あまりにも旅行者の身勝手というものだ。

数日間の宿となったホテルの部屋からは、この市を東西に流れるアルノ川を真下に見おろすことができる。地図をひろげ調べると、どうも目の前の橋がサンニコロ橋らしい。対岸に連なるゆるい丘陵が、ミケランジェロの丘だろうか。3月中旬のこの季節では、花の都と謳われるにはまだ早く、薄手のジャンパーを羽織ってさえいれば決して寒くはないものの、空を覆う灰色の雲が景色をけむらせる。壁にピエタ像のモノクロ写真が2枚、別の角度から撮られそれぞれ額に納まっている。巨匠ミケランジェロは生涯を通して四体のピエタ像を刻んだ。最も初期の作品を、我々はすでにローマのヴァチカンで知っていた。ここではその後の2体の像を見ることができる。「ピエタ」そのものは十字架から降ろしたキリストの遺骸を抱いたマリアが嘆き悲しむ情景を描いたものを指し、キリスト教美術の画題として、中世を通じよく扱われたものらしい。実際、このような宗教画には、後になってフランスのルーブルで出会う機会を持ったのだが、そこで描かれたマリアは年老い悲痛な表情をうかべ、暗い色調も手伝ってか薄気味悪いものであった。それに比べ、ヴァチカンで見たマリアの静かに息づく清らかさには明らかに表現における宗教上の解釈の違いが認められる。サヴォナローラ教理の実現と見る説もあるようだが、私にとっては、意外にも、昨年夏、専攻科の研修旅行で訪れた広隆寺の弥勒菩薩半跏像のあの冥想的なおだやかさ、指の様子を思い出してしまっていたのだから仕方がない。

大雨の降った夜の翌日、はじめての好天に恵まれた。フィレンツェは小さい街であると聞いていたが、なる程、小さい範囲内に美術館、教会など見るべきものが集中している。そのため、せっかちな観光旅行にありがちなタクシーの利用によって、法外な料金を吹っ掛け

られる心配もしなくて済む。マップを片手に歩きまわるのには丁度具合が良い。そして街の中心へ、ドゥオモへと道を進めると、レンガ色の巨大な円蓋が見え隠れする。図画の時間に遠近法を学ぶように、道の両側の高い建造物が視界の中央へと伸びる線を作る。それが、ひとたび開かれて、ドゥオモの前へ体が押し出されてしまうと、案外、狭い空間に閉じこめられていること、いや、その空間にはまるで不似合な巨大さを持つことがわかり、額を打付けるような感じすら起こす。立っている位置からは、到底全体を把握することなどできはしない。もし私が、観光案内の写真等で、あらかじめ全景を知らなかったならば正面がどこにあるのかすらわからなかったであろう。とにかく、緑、ピンク、白の大理石によるパズルのような表面の模様が、突如、眼に飛び込む。周囲はレストランあり、カフェテラスありで、夜になればウィンドーにカラーのライトがあふれるであろうショッピング街が、幅の広くない道路をひとつ隔ててとり囲んでいる。その刺き出しのカテドラルから、あまりの違和感に逃げるようにして聖堂内にはいる。そして再び愕然とする。薄明の内部の空気の冷たさ、静けさ。外観の豪華さからは思いもよらない素朴さ。一歩、二歩と歩むうちに、外部とは全くの別空間が私に与えられたことが理解された。壁面の描画すら、薄光と時の洗礼を受けているせいで定かではないが、瞳を凝らせば画集などで馴染みのウッチェロのフレスコ画であった。ここではピエタも、正面入り口から近い柱の横にひっそりと置かれている。ヴァチカンで防弾ガラスの向側に、封じ込められ、ライトを浴びた初期の作品とは何たる違いであろう。

ブルネレスキが設計したというドームには修理中で登ることができなかった。それで、一旦、聖堂の外に出て、すぐ隣りにそびえるジョットの塔に登る。その細く暗い階段を、気の遠くなる程昇りつめると、私にとってはいちばん親しいフィレンツェの街の顔に出会うことができた。ゆるい勾配を持ち、レンガ色のたどたどしい瓦をひきつめた屋根がこのドゥオモを中心に広がっている。サン・ロレンツォ教会のドーム、サンタ・クロッチェ教会の塔、イスラエル寺院のトルコブルーの円蓋がひときは異彩を放つ。しばらくの間、低

い雲がレンが色の街の上に形づくる影のおもしろさに眼を奪われていた。

そのうち、遠足に来たのだろうか、土地の子供たちがガヤガヤとやって来た。この異国人を、子供の無邪気さでか、容赦なくジロジロ見て大騒ぎする。何を言われようが言葉の通じない強味で平気であるが、早々に退散することにした。しかし、その視線から彼らの関心の対象は人間様の方ではなく、私の手にしていた小型カメラにあるらしかった。このような物質に対す

る好奇の視線に出くわすと、私の後ろに経済的にも恵まれた日本の姿を意識せずにはいられない。

そんな折、異邦の地で同じ日本人に出会うと、擦れ違い際について「こんにちは」と声をかけ合ってしまう。同民族、同言語であることの連体感がそうさせるのか。

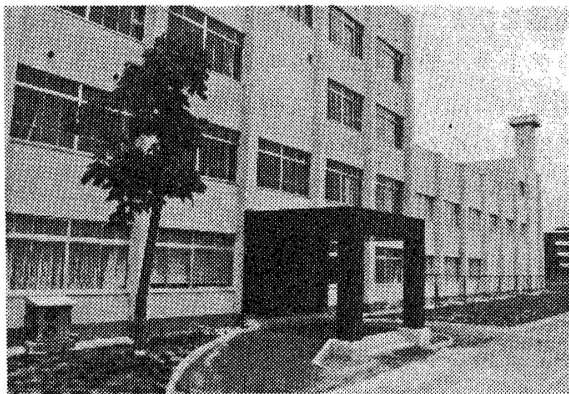
上野駅の雑踏に再び戻った私は、お互いが素知らぬふりで行き過ぎる人々たちにすら、今までにない親和感が湧きあがるのを押えることができなかった。



トリチウム科学センターについて

トリチウム科学センター長 竹内 豊三郎

白い壁が目にしみるように出来上がった富山大学トリチウム科学センターの開所式が4月21日に行われた。



トリチウム科学センター外観

この日には文部省をはじめ、日本学術会議会長の伏見康治先生、名大プラズマ研究所の垣花秀武先生、その他金沢大学の金子学長ら多数出席され祝福と同時にこれからの活躍への希望が述べられた。

文部省国際学術局の中村氏はトリチウム科学センターの設立が富山大学に行われた理由が本学におけるトリチウム研究の歴史と触媒化学における業績にもとづくものであると設立の理由を冒頭に語られ、つづいて伏見先生はプラズマの研究が核融合炉の実現に向って進展しつつある途上にその燃料としてトリチウムが選

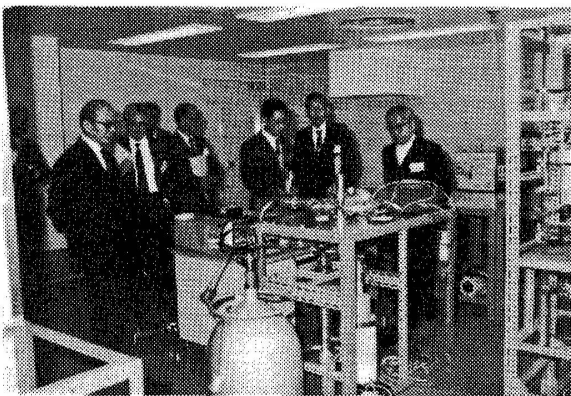
出されたが、これについての特性を明かにしておくことが急務であることについて語られた。また垣花教授は国際原子力委員会（IAEA）におけるエネルギー開発としての核融合研究体制からみて、富山大学がこのセンターの設立により如何に重要な立場に置かれることになったかを認識すべきであると強調された。金子学長は北陸は日本海に面しているのであるから日本の中心であるというウイットをまじえて新しいセンターの設立を祝福され、富山医科薬科大学の小沢副学長は、和漢薬という古典的表題の研究所が来世紀のエネルギーに関する研究という極めて新しいものに転身したそのコントラストへの興味について語られた。



祝辞を述べる伏見康治日本学術会議会長

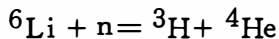
完成したセンターは1,150㎡でその3分の2が実験室、廃棄物、廃水処理室などで残りが事務室、教官室、図書文献室などとなっている、専任の教官として教授、助教授、助手各1名の外に技官1名があり、これに他学部の教官の協力を得て研究が行われる。またセンターの管理については自然科学系を有する学部からの教官を含む8名の教授があたり、その運営について協議される。センターの研究領域はトリチウムの反応、物性および環境の3方面で、いずれも核融合炉の設計に必要な基礎的な実験データを集積することである。

トリチウムは水素の一種（同位体またはアイソトープともいう）であるが天然には極めてわずかで、人工

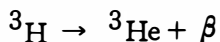


内部見学中の来賓

的に核反応によって作られたものが天然のものと混在している、実際にはトリチウムの同位体 ${}^6\text{Li}$ に中性子を照射して作られるものが多い。この場合ヘリウム ${}^4\text{He}$ が同時に出来る。

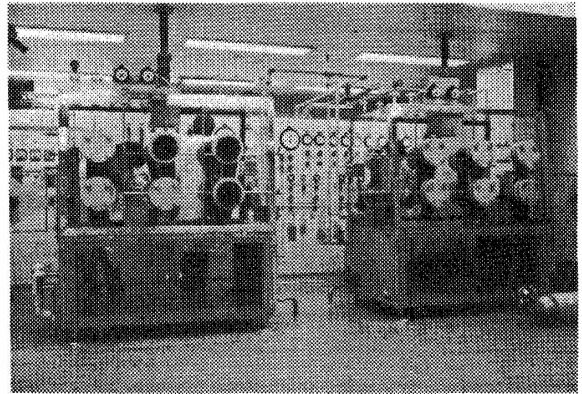


トリチウムの核は通常の水素や重水素のように安定ではなく壊変してヘリウムの同位体 ${}^3\text{He}$ に変る、このとき β 線を放出するから放射性である。しかしこの β 線



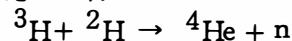
のエネルギーは極めて小さく、数センチの空気層に吸収され消失する。トリチウムの特長は放射能の弱いことと質量が通常の水素の3倍もあることである。質量が大きいと化学反応の起り易さに影響する。生体物質の水素のかわりにトリチウムが組み込まれた場合に、

もしトリチウムの壊変が起ればヘリウムになるからその生体物質の分子構造が変わることになる。このような場合に生理的にどのような影響が生ずるかについては明確ではないことが殆んどである。



高レベル実験室

核融合炉の中では高いエネルギーを持った（プラズマ状態）トリチウムの集団が作られているが、この集団からはみ出したトリチウムが炉の壁面にぶつかったとき、その材料とどんな反応を起し損傷を起すがが重要な問題となる。また、水素が金属を透過し易いようにトリチウムも透過する。速度は遅いけれど、途中でヘリウムに変化して動かなくなることも起りうるから炉材料を弱くする。炉の中での核反応は重水素との反応で、反応の進行にともなって



ヘリウムを生ずる、ヘリウムをこれらの中から容易に分離することも必要である。また万一トリチウムが装置から漏洩したとき、どのような方法で除去して、安全に固定化するかの問題などがある。このような問題を解決するための研究がこのセンターで行われることになっている。また、外国におけるトリチウムに関するデータを収集することの他に、他の大学や研究所からの共同利用なども計画している。

学生部だより

第33回北陸四大学学生総合体育大会が、北陸四大学学生体育競技連盟及び本学の主催で、7月12日(日)を中心に別記会場で開催されます。

競 技 日 程

種 目	期 日	開始時間	競 技 会 場	競 技 方 法 及 び 小 種 目
陸 上 競 技	男・女	7月12日	富山県営陸上競技場	男子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1,500m, 5,000m, 110mH, 400mH, 3,000mSC, 400mR, 1,600mR (フィールド) 走り跳, 三段跳, 走高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投, ハンマー投 女子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 110mH, 400mR (フィールド) 走り跳, 走高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投
野 球	男	7月12日(雨天の場合13日に順延)	富山商船高専 グラウンド	リーグ戦
庭 球	男・女	7月10日, 11日, 12日(雨天の場合は13日まで順延)	富山大学硬式庭球 コート	団体(リーグ戦) 男子 4複7単 女子 2複3単
軟 式 庭 球	"	7月12日(雨天の場合13日に順延)	富山県営軟式庭球場	団体(点取りリーグ) { 男子 5チーム9セット 女子 3チーム9セット 個人(トーナメント) { 男子 15チーム以内9セット 女子 10チーム以内9セット
卓 球	"	7月12日	富山大学第二体育館	団体(リーグ戦) { 男子 4複7単 女子 2複5単 個人(トーナメント・シングルスのみ) { 男子 20名以内 女子 12名以内
バドミントン	"	7月11日, 12日	高岡市市民体育館	団体(点取りリーグ) { 男子 3複4単 女子 2複3単 個人(トーナメント) { シングルス男子12名以内, 女子10名以内 ダブルス 男子 6組以内, 女子 5組以内
バレーボール	"	7月12日	富山医科薬科大学 体育館	トーナメント戦 3位決定戦 3セット
サッカー	男	6月28日, 7月5日 7月12日	富山大学第一 グラウンド	リーグ戦
ラグビーフットボール	"	6月21日, 6月28日 7月5日	富山大学第二 グラウンド	リーグ戦(未決定のときは引分け) (35...5-35)
剣 道	男・女	7月12日	県営富山武道館	団体(点取りリーグ) { 男子 11名以内(登録は15名以内) 女子 5名以内(登録は7名以内) 個人(トーナメント) { 男子 10名以内 女子 5名以内
柔 道	男	7月5日	富山大学武道場	団体(点取りトーナメント) 3位決定戦 個人(トーナメント) 4名以内
バスケットボール	男・女	7月12日	富山工業高等体育館	トーナメント戦 3位決定戦
水 泳	"	"	富山市民プール	男子 自由形 100m, 200m, 400m, 800m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 100m, 200m メドレーリレー 400m リレー 200m, 800m 個人メドレー 200m 女子 自由形 100m, 200m, 400m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 50m, 100m メドレーリレー 400m リレー 200m, 400m 個人メドレー 200m
ヨ ッ ト	"	7月4日, 5日	阿尾湾	総合と種目別(スナイプ, 470級) スナイプ級2艇制 470級2艇制
準 硬 式 野 球	男	7月12日(雨天の場合13日に順延)	富山医科薬科大学 グラウンド	トーナメント戦 3位決定戦
ハンドボール	"	7月12日	富山大学第一体育館	トーナメント戦 3位決定戦
空 手 道	"	"	富山大学武道場	団体 自由組手(5組)リーグ戦 個人 自由組手各段4名以内2分1本勝負(引分けの時2分延長後判定)トーナメント戦
弓 道	男・女	"	県営富山弓道場	団体 { 男子8名(1人20射 計160射) 四ツ矢5回 女子4名(" " 計80射) 個人 団体戦出場者および男女8名(20射中の中数の多い者)
体 操	"	"	富山商業高等学校 体育館	男子 床運動, 鞍馬, 平行棒, 吊輪, 跳馬, 鉄棒 女子 床運動, 段違平行棒, 平均台, 跳馬
自 動 車	"	"	呉羽自動車学校	(1) 軽四輪 (550CC以下) (2) 小型トラック(ナンバーキヤブオーバータイプ) (3) 小型乗用車 (4) 普通乗用車
節 作 舞 踊	男・女	7月11日	富山大学第二体育館	公開演技
少林寺拳法	男	"	富山大学第一体育館	公開演武(団体演武, 組演武, 個人乱捕リーグ戦)
合 気 道	男・女	"	富山大学武道場	公開演武(組演武)

昭和56年度富山大学都道府県別入学者数調

昭和56年5月1日現在

	人 文	教 育	経 済	理	工	計 (%)
北 海 道	1		4	2		7 (0.6)
青 森	1					1 (0.1)
岩 手						
宮 城						
秋 田	1		2			3 (0.3)
山 形				1		1 (0.1)
福 島						
茨 城	1			2		3 (0.3)
栃 木			1	1	1	3 (0.3)
群 馬	1			5		6 (0.5)
埼 玉			1	2		3 (0.3)
千 葉			1	1	1	3 (0.3)
東 京	1			3		4 (0.3)
神 奈 川	3			1		4 (0.3)
新 潟	1		2	7		10 (0.8)
富 山	101	197	157	68	163	686 (57.6)
石 川	27	37	39	21	59	183 (15.4)
福 井	7	3	24	8	1	43 (3.6)
山 梨	1		1	2		4 (0.3)
長 野	3		2	1	1	7 (0.6)
岐 阜	5		19	7	16	47 (3.9)
静 岡	1			4	1	6 (0.5)
愛 知	7	2	25	16	45	95 (8.0)
三 重	1		5	5	1	12 (1.0)
滋 賀	1	1	7	1	3	13 (1.1)
京 都	1		1	5	3	10 (0.8)
大 阪	1		3	4	3	11 (0.9)
兵 庫	2		2	6	2	12 (1.0)
奈 良					3	3 (0.3)
和 歌 山			1			1 (0.1)
鳥 取				1		1 (0.1)
島 根						
岡 山			2	1		3 (0.3)
広 島						
山 口	1					1 (0.1)
徳 島						
香 川				1		1 (0.1)
愛 媛	1					1 (0.1)
高 知						
福 岡				1		1 (0.1)
佐 賀						
長 崎						
熊 本						
大 分				1		1 (0.1)
宮 崎			1			1 (0.1)
鹿 児 島						
沖 縄						
計	170	240	300	178	303	1,191 (100.0)

昭和55年度 卒業生進路（就職）状況

昭和56年5月1日現在

学部	学科課程	項目 性別		卒業者数		就職希望者数		就職不希望者数		就職者数		未就職者数		就職率 (%)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
文理学部	文学科	9	0	7	0	2	0	6	0	1	0	86			
	理学科	27	5	27	5	0	0	25	4	2	1	93	80		
	計	36	5	34	5	2	0	31	4	3	1	91	80		
人文学部	人文学科	26	21	22	19	4	2	21	13	1	6	95	68		
	語学文学科	13	54	10	49	3	5	10	45	0	4	100	92		
	計	39	75	32	68	7	7	31	58	1	10	97	85		
教育学部	小学校教員養成課程	28	105	28	103	0	2	25	91	3	12	89	88		
	中学校教員養成課程	22	36	20	36	2	0	19	35	1	1	95	97		
	養護学校教員養成課程	2	19	2	19	0	0	1	14	1	5	50	74		
	幼稚園教員養成課程	0	28	0	26	0	2	0	22	0	4		85		
	計	52	188	50	184	2	4	45	162	5	22	90	88		
経済学部	経済学科	101	4	98	4	3	0	98	4	0	0	100	100		
	経営学科	115	6	110	4	5	2	110	4	0	0	100	100		
	計	216	10	208	8	8	2	208	8	0	0	100	100		
理学部	数学科	17	5	13	5	4	0	9	5	4	0	69	100		
	物理学科	31	1	19	1	12	0	16	1	3	0	84	100		
	化学科	13	22	10	21	3	1	9	18	1	3	90	86		
	生物学科	19	2	14	2	5	0	12	2	2	0	86	100		
	地球科学科	17	3	9	3	8	0	8	3	1	0	89	100		
	計	97	33	65	32	32	1	54	29	11	3	83	91		
工学部	電気工学科	49	0	44	0	5	0	44	0	0	0	100			
	工業化学科	49	2	45	2	4	0	45	2	0	0	100	100		
	金属工学科	42	0	40	0	2	0	40	0	0	0	100			
	機械工学科	45	0	38	0	7	0	38	0	0	0	100			
	生産機械工学科	36	0	32	0	4	0	31	0	1	0	97			
	化学工学科	41	0	35	0	6	0	34	0	1	0	97			
	電子工学科	35	0	29	0	6	0	29	0	0	0	100			
	計	297	2	263	2	34	0	261	2	2	0	99	100		
合計		737	313	652	299	85	14	630	263	22	36	97	88		

産 業 別 就 職 状 況

昭和56年5月1日現在

産業別	学部		文理学部			人文学部			教育学部			経済学部			理学部			工学部			合計		
	性別		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
第二次産業	建設業				1	1	2				6	0	6	0	1	1	7	0	7	14	2	16	
	食品・たばこ製造業	0	1	1	0	1	1				3	0	3	2	0	2	1	0	1	6	2	8	
	繊維工業										2	0	2				4	0	4	6	0	6	
	衣類・その他の繊維製品										3	0	3							3	0	3	
	出版・印刷関連産業				0	1	1				3	1	4	1	0	1	5	0	5	9	2	11	
	化学工業										8	0	8	3	9	12	23	1	24	34	10	44	
	鉄鋼業				0	1	1				1	0	1				7	0	7	8	1	9	
	非鉄金属製造業				1	0	1				1	0	1	1	0	1	14	1	15	17	1	18	
	金属製品製造業				0	2	2				6	0	6				14	0	14	20	2	22	
	一般機械器具				0	2	2				4	0	4	1	0	1	35	0	35	40	2	42	
	電気機械器具	1	0	1	0	3	3	0	1	1	12	1	13	5	2	7	53	0	53	71	7	78	
	輸送用機械器具				0	3	3				7	0	7				18	0	18	25	3	28	
	精密機械器具	3	0	3	0	1	1							2	0	2	5	0	5	10	1	11	
	その他の製造業	3	0	3	1	0	1				11	0	11	0	1	1	21	0	21	36	1	37	
	計	7	1	8	3	15	18	0	1	1	67	2	69	15	13	28	207	2	209	299	34	333	
第三次産業	卸売業	2	1	3	5	2	7	0	1	1	11	0	11	0	2	2	13	0	13	31	6	37	
	小売業				0	8	8	0	2	2	10	1	11							10	11	21	
	銀行・信託業				0	1	1	0	1	1	26	0	26							26	2	28	
	証券・信託業	1	0	1							11	1	12							12	1	13	
	保険業				0	1	1				10	2	12	1	0	1				11	3	14	
	その他の金融・保険業				1	2	3				16	0	16							17	2	19	
	不動産業				1	0	1													1	0	1	
	運輸業							1	1	2	3	0	3					4	0	4	8	1	9
	通信業										1	0	1				1	0	1	2	0	2	
	電気・ガス・水道業										5	0	5				9	0	9	14	0	14	
サービス業	医療保険業							0	1	1										0	1	1	
	法務										0	1	1							0	1	1	
	教育	11	1	12	10	21	31	42	141	183	1	0	1	23	6	29	1	0	1	88	169	257	
	非営利の団体							0	1	1	1	0	1	1	0	1				2	1	3	
	その他のサービス業	6	1	7	4	7	11	0	4	4	14	1	15	12	5	17	9	0	9	45	18	63	
	国家事務	2	0	2	0	1	1	0	1	1	12	0	12	2	1	3	2	0	2	18	3	21	
	地方事務	2	0	2	7	0	7	2	7	9	20	0	20	0	2	2	15	0	15	46	9	55	
計	24	3	27	28	43	71	45	160	205	141	6	147	39	16	55	54	0	54	331	228	559		
上記以外のもの							0	1	1										0	1	1		
合計	31	4	35	31	58	89	45	162	207	208	8	216	54	29	83	261	2	263	630	263	893		

【編集後記】

今回発行の「学園ニュース」から学内風景のスケッチと目次を掲載することにしました。少しでもソフトな感じと読み易いものにしようとの微意によるものです。学園内部のコミュニケーションと皆さんの心の通いに役立つことを念じております。

◆ 学園ニュース編集委員

学生部長	教授	四谷	平治	理学部	教授	松本	賢一
人文学部	〃	山口	博	工学部	〃	市村	昭二
教育学部	〃	大塚	恵一	教養部	助教授	木越	治
経済学部	〃	棚田	良平				